

SYLLABUS

# シラバス

令和8年度前期

歯科衛生士科 1年次

医療法人社団 慈恵会  
神戸総合医療専門学校

歯科衛生士科 教育課程（令和8年度前期）

1年次

科目名	単位数	時間数	年次	時期	科目名	単位数	時間数	年次	時期
生物学	2	30	1	前期	歯科保健指導論Ⅵ	1	30	3	後期
化学	1	15	1	前期	栄養指導	2	30	2	前期
心理学	1	15	1	前期	歯科診療補助論Ⅰ	1	15	1	前期
倫理学	1	15	1	前期	歯科診療補助演習Ⅰ	2	30	1	前期
歯科英語	1	15	1	後期	歯科診療補助論Ⅱ	1	15	1	後期
保健体育	2	30	1	前期	歯科診療補助演習Ⅱ	2	30	1	後期
キャリアデザインⅠ	1	15	1	前期	歯科診療補助論Ⅲ	1	15	2	前期
キャリアデザインⅡ	1	15	3	後期	歯科診療補助演習Ⅲ	2	30	2	前期
情報処理	2	30	1	前期	歯科診療補助論Ⅳ	1	30	2	後期
解剖学	2	30	1	前期	歯科診療補助論Ⅴ	1	15	3	前期
生理学	2	30	1	前期	歯科材料学	1	15	1	後期
口腔解剖学	2	30	1	前期	医療安全	1	15	1	前期
口腔生理学	1	15	1	後期	臨床検査	1	15	2	前期
口腔組織発生学	1	15	1	後期	臨地・臨床実習Ⅰ	1	45	1	後期
生化学・口腔生化学	1	15	1	後期	臨地・臨床実習Ⅱ	9	405	2	後期
微生物学・口腔微生物学	2	30	1	前期	臨地・臨床実習Ⅲ	10	450	3	前期
病理学・口腔病理学	2	30	1	後期	摂食嚥下	2	30	2	前期
薬理学・歯科薬理学	2	30	1	後期	チーム医療	2	30	2	前期
衛生・公衆衛生	2	30	1	前期	関連医学・医学概論	2	30	2	前期
口腔衛生学	2	30	1	前期	看護学	1	15	2	前期
情報統計学	2	30	1	後期	医療事務・受付	1	15	3	後期
衛生行政	2	30	2	前期	歯科衛生学演習Ⅰ	1	15	1	前期
歯科衛生士概論	1	15	1	前期	歯科衛生学演習Ⅱ	1	30	1	後期
歯科臨床概論	1	15	1	前期	歯科衛生学演習Ⅲ	1	30	2	前期
保存修復学	1	15	1	後期	歯科衛生学演習Ⅳ	1	15	2	後期
歯内療法学	1	15	1	後期	歯科衛生学演習Ⅴ	1	15	3	前期
歯周病学	1	15	1	後期	総合歯科演習	1	30	3	後期
歯科補綴学	2	30	1	後期	歯科衛生学特論Ⅰ	2	60	3	後期
小児歯科学	2	30	1	後期	歯科衛生学特論Ⅱ	1	30	3	後期
障害者歯科学	1	15	1	後期	歯科衛生学特論Ⅲ	1	30	3	前期
歯科矯正学	2	30	1	後期	歯科衛生学特論Ⅳ	1	30	3	後期
口腔外科学	2	30	2	前期	歯科衛生学特論Ⅴ	1	30	3	後期
歯科麻酔学	1	15	2	前期	歯科衛生学特論Ⅵ	1	30	3	後期
高齢者歯科学	2	30	2	前期					
歯科放射線学	1	15	2	前期					
先端医療	1	15	2	前期					
歯周病予防処置論Ⅰ	1	15	1	前期					
歯周病予防処置演習Ⅰ	1	30	1	前期					
歯周病予防処置論Ⅱ	1	15	1	後期					
歯周病予防処置演習Ⅱ	1	30	1	後期					
歯周病予防処置論Ⅲ	1	15	2	前期					
歯周病予防処置演習Ⅲ	1	30	2	前期					
歯周病予防処置論Ⅳ	1	30	2	後期					
歯周病予防処置論Ⅴ	1	15	3	前期					
う蝕予防処置論	1	30	2	前期					
歯科保健指導論Ⅰ	1	30	1	前期					
歯科保健指導論Ⅱ	1	30	1	後期					
歯科保健指導論Ⅲ	1	30	2	前期					
歯科保健指導論Ⅳ	1	30	2	後期					
歯科保健指導論Ⅴ	1	30	3	前期					

科目名		授業形態	担当教員名	
生物学		講義	沖田 章子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
生体の構造を知るために、細胞の構造、働きおよび生命現象に関する基本的知識を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 真核細胞の基本的構造と機能を概説できる。		6. 遺伝子および染色体の構造を説明できる。		11. 性染色体による性の決定と伴性遺伝を説明できる。
2. 原核細胞と真核細胞の特徴を説明できる。		7. 減数分裂における染色体の挙動を説明できる。		
3. 細胞分裂と細胞周期を概説できる。		8. DNAの複製と修復の機序を説明できる。		
4. 酵素の構造、機能および代謝調節を説明できる。		9. 転写と翻訳の過程を説明できる。		
5. 細胞呼吸とエネルギー産生を説明できる。		10. 遺伝子型と表現型の関係を説明できる。		
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 学習の進め方 生物とは何か			
2	現代を生きる生命 細胞とDNA			
3	現代を生きる生命 ゲノム			
4	生まれ、成長し、死ぬためのしくみ 発生			
5	生まれ、成長し、死ぬためのしくみ 発生と遺伝子			
6	生まれ、成長し、死ぬためのしくみ 遺伝子と科学技術			
7	感じ、動くためのしくみ 感覚と神経			
8	感じ、動くためのしくみ 神経系			
9	生きるためのしくみ 代謝			
10	生きるためのしくみ 循環			
11	子孫を増やすしくみ 生殖			
12	環境に適応するしくみ 外的環境への適応			
13	環境に適応するしくみ 免疫			
14	生命が社会を営むしくみ 社会性を生み出す脳			
15	問題演習とまとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%	生物の基礎となるしくみを理解できているか評価する。		
レポート・課題	20%	授業内容の理解度と課題に取り組む姿勢をもとに評価する。別途評価基準を示す。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
みんなの生命科学 第2版	北口哲也 他	化学同人		
フォトサイエンス 生物図録 新課程 改訂版	嶋田正和 他監	数研出版		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				
予習として教科書や図録を用いて生物用語の確認をすること、日常生活の中で医療や科学の話題に関心を持つことを希望する。				

科目名		授業形態	担当教員名	
化学		講義	酒井 健雄	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 ( 1 単位)		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
化学は医療に欠かせない知識である。歯科衛生士の業務を考えると口腔内で使うレジンや薬品に対する知識・安全性の基準をしっかりと理解しておく必要がある。高校で化学を履修していない場合も考えられるので、歯科衛生士として必要最低限の基本的な事柄に絞り原子の構造、化学結合と性質、物質の状態、化学反応の法則、%濃度、モル濃度、浸透モル濃度などについて教授し、専門科目へのスムーズな接続を目的とする。				
授業の到達目標				
歯科衛生士に必要な化学の各基本的事項について説明ができること。溶液の%濃度や人体の浸透圧について理論の裏付けから説明できる能力を身につける。毎回演習問題で講義の理解度を測る。				
授業計画				
回	内容			
1	医療で扱う単位 SI単位系、生体内圧力・血圧の法定計量単位			
2	物質の分類・物質の構造 電子配置			
3	元素の周期律 物質質量 (mol) 化学結合			
4	気体の性質			
5	水溶液の濃度表示			
6	酸とアルカリ 緩衝作用 酸化と還元			
7	有機化合物			
8	人体を構成する物質			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	90%			
レポート・課題	10%	課題の提出。別途評価基準を示す。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 化学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	高校化学の教科書も参考になるので利用してください。			
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
心理学		講義	尾崎 勝彦	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 ( 1 単位)		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
良好な対人関係(对患者、対同僚、対歯科医等)を構築するために、人の行動と心理に関する基本的な知識と考え方を習得する。更に直接対人接触職である医療者として、人間とは何か、を考えることができるようになる。				
授業の到達目標				
1.行動と知覚、学習、記憶、認知、言語、思考およびパーソナリティとの関係を概説できる。 2.動機づけを概説できる。 3.欲求とフラストレーション・葛藤との関連を概説できる。 4.人生や日常生活におけるストレスを概説できる。 5.こころの健康に対する支援を概説できる。 6.ライフサイクルの各段階におけるこころの発達の特徴を概説できる。 7.こころの発達にかかわる要因を概説できる。 8.パーソナリティの特徴を概説できる。 9.言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションを説明できる。 10.文化・慣習によってコミュニケーションのあり方が異なることを列挙できる。 11.話し手と聞き手の役割を説明でき、適切にコミュニケーションできる。 12.対人関係にかかわる心理的要因と行動を概説できる。 13.知能の発達の経年的変化を概説できる。 14.集団の中の人間関係を概説できる。				
授業計画				
回	内容			
1	心理学の立場・考え方・研究方法(第15章)			
2	①知覚と感覚；知覚の成立、体制化、諸相、錯視 ②記憶の種類 (第1,2章)			
3	学習；レスポンド条件付け、オペラント条件付け、その他の学習(第2章)			
4	①動機づけ 内発的/外発的、社会的、欲求(第3章) ②感情とストレス(第4章)			
5	①パーソナリティー 類型論と特性論(第5章) ②知能 知能と知能テスト(第6章)			
6	発達理論 主な発達理論(第8,9章)			
7	対人認知 対人魅力、社会的影響(第10,11章)			
8	カウンセリングと心理療法(第12~14章)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%	基礎的な理解ができているか		
レポート・課題	15%	書式に従っているか、内容は妥当か。別途評価基準を示す。		
小テスト				
その他	5%	グループワーク、ペアワークへの参加。別途評価基準を示す。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
歯科衛生学シリーズ 心理学	全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社		
自由記載	補足教材としてプリントも多用するので、プリントの整理をきちんとしておくこと。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
よくわかる臨床心理学	山口創	川島書店		
自由記載				
備考				



# 令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
保健体育		講義・実技	田中 靖人	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>様々なスポーツ種目の実践を通してスポーツの楽しさを味わうことと、チームスポーツを通してチームワークの気持ちを理解する。                      また、スポーツの必要性や安全面について理解を深め、それらを実践に活かせるようにする。                      さらに、健康とスポーツに関連するトピックに関する講義を通して、スポーツへの興味や関心を高める。</p>				
授業の到達目標				
<p>スポーツ活動を通して、身体のためのスポーツを実践したいという気持ちを養うことや、スポーツの楽しさを味わうことや、コミュニケーションツールとしてスポーツが活用されていることを理解する。                      また、健康やスポーツに関して興味・関心を深めることができる態度を養成する。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	講義：スポーツ活動における我が国の現状			
2	実技：ニュースポーツ1-1（アルティメット、ボッチャ、インディアカ、ドッジビー等）			
3	実技：ニュースポーツ1-2			
4	実技：球技1-1（バスケットボール、バレーボール、フットサル、卓球等）			
5	実技：球技1-2			
6	実技：球技1-3			
7	講義：減量について考える			
8	実技：球技2-1（バスケットボール、バレーボール、フットサル、卓球等）			
9	実技：球技2-2			
10	実技：球技2-3			
11	講義：熱中症とその予防			
12	実技：ニュースポーツ2-1（アルティメット、ボッチャ、インディアカ、ドッジビー等）			
13	実技：ニュースポーツ2-2			
14	実技：ニュースポーツ2-3			
15	講義：スポーツが社会に及ぼす影響			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	100%	テーマに沿ったスポーツからの知識や経験が具体化されているかを述べてください。評価基準は別途指示します。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載	参考文献は定めないが、必要に応じて指示することがある。			
備考				
<p>実技受講の際には、運動にふさわしい服装で臨み、装飾品等は危険防止のため外し、貴重品類は盗難防止のためグランドや講堂には持ってこないこと。                      けがや病気等で実技ができない場合は報告・相談すること。                      天候や進捗、履修者数によって実技種目や講義日を変更する場合があります。</p>				



科目名		授業形態	担当教員名	
情報処理		講義・演習	田中 靖人	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>我々は医療専門職者として、患者の個人情報の取り扱いや電子カルテの操作など、情報を法の下で取り扱ったり管理する立場となる。</p> <p>本講座では、情報社会における様々な問題点を理解することで安全な情報管理が行えること、またワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトに触れながら、パソコンスキルの向上を目指すことを目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Microsoft officeを用いて学校・社会生活に必要な定型書式の作成・編集方法が理解できること。</li> <li>・Microsoft officeを用いて記録物作成に必要な図表の作成・挿入、計算式を活用したデータ処理が理解できること。</li> <li>・Microsoft officeを用いてプレゼンテーションに必要な資料の作成方法、プレゼンテーション技法が理解できること。</li> <li>・インターネット環境における情報収集の行い方・情報管理の基本を理解できること。</li> </ul>				
授業計画				
回	内容			
1	医療関係者と個人情報			
2	ネットにおけるマナー			
3	【パソコンスキルの修得（Word 1）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
4	【パソコンスキルの修得（Word 2）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
5	【パソコンスキルの修得（Word 3）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
6	【パソコンスキルの修得（Word 4）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
7	【パソコンスキルの修得（Excel 1）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
8	【パソコンスキルの修得（Excel 2）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
9	【パソコンスキルの修得（Excel 3）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
10	【パソコンスキルの修得（Excel 4）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
11	【パソコンスキルの修得（Excel 5）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
12	【パソコンスキルの修得（Power Point 1）】操作方法を学ぶ・課題（プレゼンテーション）の作成			
13	【パソコンスキルの修得（Power Point 2）】操作方法を学ぶ・課題（プレゼンテーション）の作成			
14	【パソコンスキルの修得（Power Point 3）】操作方法を学ぶ・課題（プレゼンテーション）の作成			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	100%	課題はデータで提出してもらい、パソコンスキルの到達度を見ます。評価基準は別途指示します。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				
授業の進捗状況によって変更が生じる場合があります。パソコンで作成したデータを保存できるように、USBメモリーを各自用意してください。				

# 令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
解剖学		講義	本間 志保	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
人体の成り立ちを理解するために、体の構造と組織・発生に関する基本的知識を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 身体の部位 (区分) と方向用語を正しく説明できる。 2. 細胞・組織・器官の関係性を説明できる。 3. 全身の構造を器官系ごとに分けて説明できる。 4. 人体の発生の概略を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	解剖学総論:解剖学とはどのような学問か、人体の区分と名称、方向用語			
2	細胞と組織:細胞の構造と機能、細胞分裂、組織について			
3	骨学			
4	筋学			
5	消化器系			
6	循環器系			
7	まとめ・練習問題			
8	感覚器系			
9	神経系			
10	呼吸器系			
11	泌尿器系			
12	生殖器系			
13	内分泌系			
14	発生学			
15	まとめ・練習問題			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%	解剖学についての正しい知識を習得できているかを評価基準とする。		
レポート・課題	20%	課題への取り組み姿勢、結果をもとに評価する。別途評価基準を示す。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
生理学		講義	本間 志保	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
人体の成り立ちを理解するために、体の構造と機能に関する基本的知識を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 細胞機能のメカニズムを説明できる。 2. 生命維持に関する全身の働きを説明できる。 3. 各器官ごとの役割と機能を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	ホメオスタシス、バイタルサイン、細胞膜			
2	代謝、神経線維、活動電位			
3	骨代謝、まとめと練習問題			
4	運動生理学			
5	消化吸収の仕組み			
6	血液			
7	感覚の生理学			
8	神経生理学			
9	まとめ・練習問題			
10	呼吸の生理学			
11	腎機能と排尿			
12	性周期、まとめと練習問題			
13	内分泌系			
14	体温調節			
15	まとめ・練習問題			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%	生理学についての正しい知識を習得できているかを評価基準とする。		
レポート・課題	20%	課題への取り組み姿勢、結果をもとに評価する。別途評価基準を示す。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
口腔解剖学		講義	小林 正樹	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
顔面、口腔およびその周辺組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造に関する基本的知識を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 頭頸部の基本的な構造を説明できる。 2. 歯と歯周組織の構造を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	口腔の概要 口腔とは、体・歯の方向用語			
2	口腔の概要 口唇、口腔前庭、固有口腔、口峽、舌			
3	口腔の概要 口腔を構成する骨、三叉神経の走行			
4	口腔の概要 唾液腺、咽頭			
5	口腔の概要 歯の解剖学：咀嚼筋、歯の概論			
6	口腔の概要 歯の解剖学：永久歯(前歯)			
7	口腔の概要 歯の解剖学：永久歯(小臼歯)			
8	口腔の概要 歯の解剖学：永久歯(大臼歯)			
9	口腔の概要 歯の解剖学：乳歯総論、乳前歯			
10	口腔の概要 歯の解剖学：乳歯(乳犬歯、乳臼歯)			
11	口腔の概要 歯の解剖学：永久歯まとめ			
12	口腔の概要 歯の解剖学：歯冠、歯根、萌出、脱落の異常			
13	口腔の概要 歯の解剖学：歯列と咬合			
14	その他：顎関節			
15	その他：総括			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%			
レポート・課題	20%	課題の提出の有無(歯牙スケッチ4点/回×5回)。		
小テスト	10%	歯牙並び替えテスト(合/否のみ)。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
微生物学・口腔微生物学		講義	塩屋園 敦	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
感染症の原因となる微生物の基本的性状や病原性、および感染症に対する生体防御機構について基本的知識を習得する。				
授業の到達目標				
1. 感染・感染症について理解できる。 2. 微生物・口腔微生物について理解できる。 3. 免疫について理解できる。 4. 滅菌・消毒および院内感染対策について理解できる。 5. 化学療法について理解できる。				
授業計画				
回	内容			
1	微生物学の概要・感染・微生物学総論			
2	主な病原細菌①			
3	主な病原細菌②・その他の微生物			
4	ウイルスとウイルス感染症①			
5	ウイルスとウイルス感染症②			
6	口腔微生物学①口腔環境と常在微生物・バイオフィルム			
7	口腔微生物学②う蝕の細菌学			
8	口腔微生物学③歯周病の細菌学			
9	口腔微生物学④その他の口腔感染症			
10	免疫①			
11	免疫②・アレルギー			
12	微生物の培養、観察、検査・化学療法			
13	消毒と滅菌・院内感染対策①			
14	消毒と滅菌・院内感染対策②			
15	復習テスト			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	正誤問題、四肢択一問題で出題 再試験では筆記試験に加えレポート課題を課すことがある。		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載	復習テストを追加実施することがある。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
衛生・公衆衛生		講義	坂本 由紀子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>疾病の発生予防（一次予防）、早期発見と早期対処（二次予防）、進行阻止とリハビリ（三次予防）の各段階を通して、個人の生涯、集団の規模、地域の特定に応じた、健康リスクを軽減する方法論を習得する。科学的な考え方を育み、地球規模の健康問題に対する理解と、保健・医療・福祉における専門家の役割を理解し、問題発見から問題解決を見据えた態度・習慣を身につけ、個人や地域の特性に応じた実践を担う判断力、生命と人格を尊重した健康政策と対人関係を形成しつつ問題を解決する能力を身につけることを目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 健康の定義と予防原則を理解する。                  2. 環境/食品と健康の関係を理解する。                  3. 感染症の予防対策を理解する。                  4. 地域保健の組織と方法を理解する。                  5. 母子/学校保健の重点を理解する。                  6. 産業と成人保健の方法を理解する。                  7. 高齢者の保健と福祉を理解する。                  8. 災害時歯科保健の課題を理解する。                  9. 精神保健の現状を理解する。                  10. 国際保健の課題を理解する。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	総論（健康の概念、予防医学の概念）			
2	人口			
3	健康と環境 1			
4	健康と環境 2			
5	感染症 1			
6	感染症 2			
7	食品と健康			
8	地域保健・公衆衛生			
9	母子保健			
10	学校保健			
11	成人保健			
12	産業保健			
13	高齢者保健			
14	精神保健			
15	災害時の歯科保健・国際保健			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
公衆衛生がみえる	医療情報科学研究所		MEDIC MEDIA	
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
口腔衛生学		講義	西山 憲行	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
歯科疾患を予防するために、歯・口腔の健康に関わる社会の仕組みを理解し、歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 歯・口腔の健康と予防について説明できる。 2. 口腔清掃について説明できる。 3. 歯科疾患の疫学について説明できる。 4. う蝕の予防について説明できる。 5. フッ化物によるう蝕予防について説明できる。 6. 歯周病の予防について説明できる。 7. その他の疾患・異常の予防について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	はじめに：口腔衛生学とは			
2	歯・口腔の健康と予防			
3	歯・口腔の付着物、沈着物			
4	口腔清掃：意義、清掃法、歯磨剤と洗口液・洗口剤			
5	歯科疾患の疫学：う蝕、歯周疾患、その他の疫学			
6	う蝕の予防（1）う蝕発生のメカニズム、発生要因			
7	う蝕の予防（2）う蝕活動性、う蝕の予防法			
8	フッ化物によるう蝕予防			
9	歯周疾患の予防（1）症状と分類、発生機序			
10	歯周疾患の予防（2）全身に与える影響、予防			
11	その他の疾患、異常の予防（1）口内炎、口腔癌、不正咬合			
12	その他の疾患、異常の予防（2）顎関節症、歯の形成不全、口臭症、口腔乾燥			
13	ライフステージごとの口腔保健管理（1）目標、母子、小児期の口腔保健			
14	ライフステージごとの口腔保健管理（2）成人期、老年期の口腔保健			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学	全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社		
自由記載	補足教材として、プリントを配布する			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				
講義の進行具合により、シラバスの授業計画は前後することもある。				

# 令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科衛生士概論		講義・演習	三村 明美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
歯科衛生学を理解し、歯科衛生士科での学習にむけてレディネスを整えることを目的とする。 保健医療人としての基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を習得する態度および倫理的思考法の基礎を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 歯科衛生業務の基盤となる歯科衛生学を習得する。 2. 歯科衛生士の役割を理解し、必要な知識、態度を身につける。 3. 医療従事者として倫理観に基づいた考えや態度を身につけることができる。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス、歯科衛生学とは			
2	歯科衛生士の歴史と現況、歯科衛生と健康			
3	歯科衛生士法と関係する法規			
4	歯科衛生士と倫理			
5	歯科衛生実践のための理論、歯科衛生実践の展開			
6	医療安全確保における歯科衛生士の役割			
7	保健・医療・福祉の制度と多職種連携、災害時における歯科衛生活動			
8	歯科衛生士の国際化、組織活動、歯科衛生士のキャリア形成			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%			
レポート・課題	30%	課題に対し適切に作成ができているかを評価する（評価基準は別途示す）		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学概論	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科臨床概論		講義	木村 英訓	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
歯科医療の意味を理解し、歯科臨床の基礎的知識を習得することにより、歯科診療での歯科衛生士の役割を理解し、説明できることを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 歯科診療とは何かを理解する。 2. 歯科診療所とその業務について理解する。 3. ライフステージと歯科診療について理解する。 4. 歯科診療の診査・検査・前処置を知る。 5. 小児歯科、歯科矯正の概要を理解する。 6. 口腔外科についての概要を理解する。 7. 歯科保存、歯周治療、歯科補綴の概要を理解する。 8. 障害者歯科、高齢者歯科の概要を理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	歯科診療の概要と歯科診療所のスタッフ、歯科診療所の設備について			
2	歯科診療所における業務（チームアプローチ）や安全管理について			
3	ライフステージごとの歯科衛生士の役割について			
4	日常歯科臨床における主な診療の流れについて			
5	小児歯科および矯正歯科の概要について			
6	口腔外科の概要について			
7	保存治療、歯周治療、補綴治療の概要について			
8	障害者歯科、高齢者歯科の概要について			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	50%	課題。別途評価基準を示す。		
小テスト				
その他	50%	積極的に発言し、授業に参加できていたかを評価します。別途評価基準を示す。		
自由記載		課題提出と授業への積極性で評価します。		
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版	松井恭平	医歯薬出版株式会社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				
全て授業において、講師が話すだけでなく、できるだけ生徒参加型にしたいと思います。 概論ですので、衛生士という素敵で明るい未来が待っているということをお伝えしたいと思います。				

# 令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯周病予防処置論 I		講義・演習	藤澤 仁美・今川 由香	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 ( 1 単位)		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
歯周病予防における歯科衛生士の役割を理解し、歯周病予防処置に携わるための知識や技術を習得する。歯周組織の構造や歯周疾患の成り立ちを踏まえ、健康な状態を維持、増進するために行われる専門的な処置を理解する。				
授業の達成目標				
1. 歯周病の基礎知識を説明できる。 2. 歯・歯肉・口腔の検査ができる。 3. プローブの種類と特徴を理解し基本的な測定方法について説明できる。 4 シックルスケーラーの基本的な把持方法および操作方法を理解し模型上で基礎的操作ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	歯科予防処置と概要		P2 ~P14	
2	口腔の基礎知識		P16~ P26	
3	口腔の付着物と沈着物		P28~P32	
4	歯周病の基礎知識		P32~P43	
5	ポジショニング		P156~P157	基礎実習室
6	歯・歯周組織の診査		P104~P112	基礎実習室
7	歯・歯周組織の検査		P112~P120	基礎実習室
8	シックルスケーラーについて		P165~P167	基礎実習室
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯周病学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯周病予防処置演習 I		演習	藤澤 仁美・今川 由香	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
歯周病予防における歯科衛生士の役割を理解し、歯周病予防処置に携わるための知識や技術を習得する。歯周組織の構造や歯周疾患の成り立ちを踏まえ、歯周予防処置の基礎を理解し、健康な状態を維持、増進するために行われる専門的な処置が実践できる。				
授業の到達目標				
1. 歯周組織の構造と歯周疾患の進行過程を理解できる。 2. 歯・歯肉・口腔の審査の目的と観察項目を理解できる。 3. プロービングの目的と意義を理解し基本的な測定方法および安全な操作を理解できる。 4. シックルタイプスクレーラーの形態的特徴と使用目的を理解し基本的な把持方法と操作原理を理解できる。				
授業計画				
回	内容			
1	ミラーピンセットの使い方			4 講義終了後 基礎実習室
2	ミラーピンセットの使い方			基礎実習室
3	ポジショニング			5 講義終了後 基礎実習室
4	ポジショニング			基礎実習室
5	歯・歯周組織の検査	プロービング	上下顎前歯部	7 講義終了後 基礎実習室
6	歯・歯周組織の検査	プロービング	上下顎前歯部	基礎実習室
7	プロービング		上下顎右側臼歯部	基礎実習室
8	プロービング		上下顎左側臼歯部	基礎実習室
9	プロービング		上下顎	基礎実習室
10	シックルスクレーラー	操作法	上下顎前歯部	8 講義終了後 基礎実習室
11	シックルスクレーラー	操作法	上下顎前歯部	基礎実習室
12	シックルスクレーラー	操作法	上下顎右側臼歯部	基礎実習室
13	シックルスクレーラー	操作法	上下顎右側臼歯部	基礎実習室
14	シックルスクレーラー	操作法	上下顎左側臼歯部	基礎実習室
15	シックルスクレーラー	操作法	上下顎左側臼歯部	基礎実習室
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	40%	評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他	60%	実技試験		
自由記載	必要に応じてプリントを配布する。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯周病学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科保健指導論 I		講義・演習	三村 明美	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
1. 健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。 2. 歯科保健指導についての基礎学問的な領域を理解する。 3. 口腔衛生管理を行うために必要な知識、技術、態度を習得する。				
授業の到達目標				
1. 歯科保健指導の定義を説明できる。 2. 歯科保健指導の法的な位置づけを説明できる。 3. 健康の概念および予防の概念を説明できる。 4. 歯ブラシの種類と特徴を説明できる。 5. 各種ブラッシング方法の特徴を説明し、実施できる。 6. 補助清掃用具の種類、特徴、適応を説明し、操作できる。 7. 歯垢染色法を説明し、実施できる。 8. 口腔清掃状態の指数を説明できる。 9. 口腔清掃状態の指数を用いて口腔清掃状態を評価できる。				
授業計画				
回	内容			
1	総論			
2	歯科保健指導の基礎			
3	歯垢染色法	基礎実習室		
4	歯垢染色法① (錠剤・含嗽法)	基礎実習室		
5	口腔清掃状態の評価① (PCR)	基礎実習室		
6	歯垢染色法② (綿棒塗布法)	基礎実習室		
7	口腔清掃状態の評価② (OHI、OHI-S)	基礎実習室		
8	歯垢染色法③ (綿球塗布法)	基礎実習室		
9	口腔清掃状態の評価③ (PHP)	基礎実習室		
10	口腔清掃状態の指数、歯周病の指数	基礎実習室		
11	口腔衛生管理に関する清掃用具① (歯ブラシ)	基礎実習室		
12	口腔衛生管理に関する清掃用具② (その他の清掃用具)	基礎実習室		
13	口腔衛生管理に関わる指導 (各種ブラッシング方法) ①	基礎実習室		
14	口腔衛生管理に関わる指導 (各種ブラッシング方法) ②	基礎実習室		
15	清掃用具まとめ	基礎実習室		
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%			
レポート・課題	20%	課題に対し適切にレポート作成ができているかを評価する (評価項目は別途示す)		
小テスト				
その他	10%	実技試験 (ブラッシング法) (評価項目は別途示す)		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科診療補助論 I		講義・演習	三村 明美	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 ( 1 単位)		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
さまざまなライフステージにおける歯科診療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識や器具・器材の名称、使用方法を理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 歯科衛生士の行う歯科診療の補助を説明できる。 2. 歯科診療室の環境、設備について説明できる。 3. 歯科診療における患者対応を説明できる。 4. 印象材の特徴、種類、用途を説明できる。 5. 患者に配慮した相互実習について説明できる。 6. レポートの書き方を理解し、課題に対し適切にレポートで表現することができる。 7. シンプルマネキンの使用ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	歯科診療補助の概要			
2	歯科診療における基礎知識			
3	歯科用ユニット			
4	歯科診療補助における基礎知識 (共同動作)			基礎実習室
5	歯科診療補助における基礎知識 (バキュームテクニック)			基礎実習室
6	シンプルマネキンの使用方法、臨床実習室の使い方			
7	印象材の基礎知識			基礎実習室
8	模型材料の基礎知識			基礎実習室
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯科材料	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯科機器	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 第5版	竹澤保政		永末書店	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科診療補助演習 I		演習	三村 明美	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
さまざまなライフステージにおける歯科診療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 患者への対応ができる。 2. 診療室の管理ができる。 3. 診療時の共同動作ができる。 4. 衛生材料を作成できる		5. 医療安全管理が説明できる。 6. アルジネート印象材の練和ができる。 7. 模型用材料の取り扱いができる。		
授業計画				
回	内容			
1	衛生材料 (ローラーコットン、綿球)			基礎実習室
2	衛生材料 (ブローチ綿栓)			基礎実習室
3	共同動作 (姿勢、位置、ライティング)			基礎実習室
4	共同動作 (フォーハンドテクニック)			基礎実習室
5	バキューム操作法			基礎実習室
6	バキューム操作法			基礎実習室
7	印象用材料 アルジネート印象材			基礎実習室
8	印象用材料 アルジネート印象材			基礎実習室
9	印象用材料 アルジネート印象材			基礎実習室
10	相互実習オリエンテーション、レポートの書き方			基礎実習室
11	共同動作・口腔内洗浄 相互実習			基礎実習室
12	共同動作・口腔内洗浄 相互実習			基礎実習室
13	模型用材料			基礎実習室
14	共同動作・バキューム操作 相互実習			基礎実習室
15	共同動作・バキューム操作 相互実習			基礎実習室
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	80%	課題に対し適切に作成ができているかを評価する (評価基準は別途示す)		
小テスト				
その他	20%	習熟度の確認のために実技の確認を実施する (評価基準は別途示す)		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯科材料	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯科機器	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
医療安全		講義・演習	三村 明美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
歯科診療における医療安全とマネジメント能力を身につけることを目的とします。 歯科医療における感染予防対策を理解し、実践するために必須なものになります。				
授業の到達目標				
1. 歯科診療における医療安全と対策を説明できる。 2. 歯科医療における感染症の概念とその対策を説明できる。 3. スタンダードプリコーションを具体的に説明できる。 4. 手指消毒やグローブの着脱が実施できる。 5. 滅菌、消毒、洗浄の方法について説明できる。 6. 消毒薬の特徴と用途について説明できる。 7. 歯科用器具に応じた滅菌、消毒、洗浄を実施できる。 8. 医療廃棄物の分類と分別を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	歯科診療における医療安全と対策			
2	インシデントとアクシデント			
3	感染症と感染予防対策			
4	手指衛生とグローブ装着・脱着			基礎実習室
5	感染予防セミナー（メディコム）	手指衛生と基本的手法		基礎実習室
6	感染予防セミナー（メディコム）	手指衛生と基本的手法		基礎実習室
7	滅菌			基礎実習室
8	消毒、洗浄			基礎実習室
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%			
レポート・課題				
小テスト				
その他	20%	授業に取り組む姿勢により評価する（評価基準は別途示す）		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科医療における国際標準 感染予防対策テキスト滅菌消毒洗浄	ICGH研究会編		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科衛生学演習 I		講義・演習	三村 明美・野崎 愛 藤澤 仁美・今川 由香	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 ( 1 単位)		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
演習を行うにあたって、必要な心得、規定を学ぶことを目的とする。 安全な演習のためには歯科器材、ユニットの取り扱い方法、実習室の使用方法を習得することが不可欠です。				
授業の到達目標				
1. 実習室の使い方を習得する。 2. 実習用模型の取り扱いを習得する。 3. 学内実習時のチェアー清拭を習得する。 4. 歯科用ユニットのメンテナンスを習得する。				
授業計画				
回	内容			
1	学内実習の心得・実習用模型の取り扱い	藤澤	基礎実習室	
2	基礎実習室の使い方	今川	基礎実習室	
3	(株) モリタ ユニットの取り扱い方法	野崎	臨床実習室	
4	(株) タカラベルモントユニットの取り扱い方法	野崎	臨床実習室	
5	チェアー清拭	三村 今川	臨床実習室	
6	チェアー清拭	三村 今川	臨床実習室	
7	チェアー清拭	三村 今川	臨床実習室	
8	歯科用ユニットのメンテナンス	野崎	臨床実習室	
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	50%	課題に対し適切にレポート作成ができているかを評価する (評価項目は別途示す)		
小テスト				
その他	50%	実技試験により習熟度を評価します (評価項目は別途示す)		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				